

所沢税務署管内税務連絡協議会 会長賞

社会を支える大切なもの

向原中学校 三年 成田 歩実

私は、税金を納めるだけのものだと考えていました。食料や日用品を購入するには消費税、大人になって仕事をするようになれば所得税など、お金がかかる場合が多く、今まで税金に対してあまりいい印象は持てませんでした。しかし、夏休み前、税作文を書くにあたって社会科の先生が税金について授業をしてくださりました。そこで、税金を納めることの大切さについて学ぶことができました。

自分の生活を振り返ってみると、確かに税金のおかげで過ごしやすい生活を送ることができているなど感じます。私は病院に通っているのですが、検査が終わり精算をするときいつも0円と表示され、お金を払わなくてよいのが常に気になっていました。また、前までひび割れが目立っていた道路が工事されてとてもきれいに整備されたのを見ると、直すのに膨大な費用がかかるはずなのに誰がお金を出しているのだろうと、日々生活していく中で、不思議に思う部分が多かったことに気づきました。それもこれも税金のおかげだと思うと、納税に対してよい印象をもてるようになりました。

また、授業を通して税金は「社会保障」というものに一番多く使われていることを知りました。私はその中でも「年金」というものに興味を持ちました。大まかなことしか知らなかったので調べてみると、「年金」は高齢者や本当に保障が必要な人に給付される世代

と世代の支え合いの制度だと分かりました。お年寄りの方々だけに向けた制度だと今まで考えていたので、福祉全体を支えるというように思えてすごく良い制度だと思いました。そして、私がおばあさんになったら年金を受け取れると考えると、今まで納税してきたものがめぐりめぐって、自分の老後の生活を支えてくれるものになるなんてすごいなと思いました。

普段私たちが納めている税金は、社会を支えてくれる大切なものだとなりました。これから先、アルバイトや仕事を始めると、本格的に納税義務者という自覚が強まっていくと思います。しかし、きちんと納めた税金はくらしを支え、誰かをも支えているんだというのを忘れずにこれからの社会をいきていきたいです。